



11月28日は北山小の参観日でした。多くの方にお越しいただき、子ども達のがんばる様子を見ていただきました。当日はさくら・ひまわり学級と5年生が販売活動も行い、子ども達の明るい声が校内に響きました。



その日の夕刻、第3回学校運営協議会を開催し、たくさんの貴重なご意見を頂戴しましたので、ご紹介します。

コミュニティ・スクールとは

学校運営協議会を導入した学校のことです。学校運営協議会は、茅野市教育委員会が指名した地域の有識者の方に集まっていただき、学校運営についてご協議頂く会です。

第3回学校運営協議会 協議内容



【第2回以降の教育活動について】

- ・給食試食会に関わって、子どもたちの食べ残しの状況はどうか。よく「朝食を食べてこない子ども」や「偏食の子供も」が多いと聞く。給食が様子を捉えるバロメーターとなる。
→本校は給食の食べ残しが少ないことを説明。湯川ひまわり会の皆様のご協力に感謝を伝える。
- ・運動会で音花火がなくなった。地域との一体感がないようにも感じる。運動会に関わらず、地域が学校と接点をもてる工夫がほしい。

【安心・安全の学校づくりに関して】

- ・県道152号のバイパス(エコーライン)ができたので、芹ヶ沢地区の児童は芹ヶ沢交差点を回らず、エコーラインを通して通学した方が安全ではないか。
→通学路は安全面の考慮もあるが、ご家庭の意向によって決めていることを説明。
- ・通学に関して、北山は保護者の送迎が多いが、本当にこれでよいか。登下校は子どもたちのコミュニケーションの機会となるが、保護者の送迎によって貴重なコミュニケーションの機会がなくなっていないか。
- ・PTAで他校の様子を聞くと、北山以外は歩いて登下校するのが基本のようだ。ただし北山は地理的な環境から、学校までがかなりの距離になるため、車で学校に来ることに違和感がない。結局はそれぞれの保護者の考えによるが、通学時間での友との関わりは今の時代あまり重要でないのではないか。
- ・通学路の生け垣の整備等は、コミュニティ・スクールが声掛けをしていく役割があるのではないか。PTAでも校外指導部にも働きかけてみる。
- ・地域での見守りについては「学校だより」でお願いしていくのもよいのではないか。

【授業を参観して・子どもの様子で気になること】

- ・一生懸命できている子とついていけない子の差がみられる。できる子中心に学習をすすめていないか。担任の先生の他にサポートの先生がいるとよい。
- ・とても活力のある学級があった。今の子どもたちの学びはすごいと感じた。
・手を挙げる、挙げないはあまり関係がない。手を挙げなくても子どもはよく考えている。

【年度まとめの学校運営について】

- ・北山小の学区は観光と農村。どちらも素晴らしい財産。物価高騰もあるが、ぜひ今までのように1~6年までスキー教室に連れて行ってあげてほしい。
- ・スキーに関しては、地域のスキー場に声掛けをしていけば協力を仰げるのではないか。
- ・学校の活動にコミュニティ・スクールがどう関わっていくかが課題。

取り組みの紹介



〈地域に出かけよう・よさを知ろう〉

11月29日に、3・4年生で学有林散策に出かけました。何か特別な遊び場や、特徴的な物があるわけではありません。でも、その中で子ども達は、様々な楽しみ方を見つけていきます。そして、楽しみながら様々な発見をしていきます。

「立っている木と倒れている木では、叩いたときの音が違う」

「前に来たときは葉っぱがたくさんあったけど、葉が落ちて風が通るようになった。」

「今日の景色は茶色とオレンジ色だけど、前来たときは緑色。花も咲いていた。」

「前に来たときはきのこがたくさんあったのに、少なくなっていてびっくりした。」



子ども達は、耳で、目で、肌で季節の移ろいを感じています。理科の学習に、「季節ごとの植物の変化」がありますが、子どもたちは実感としてそれを捉えていました。季節ごとに、学有林に出かけた成果だと思えます。そうした活動を通して、そんな豊かな自然のある北山のよさを感じてくれればと思います。



〈地域のみなさんのおかげで〉



学校運営協議会の朝倉さんより、関口裕子さんをご紹介いただき、11月6日に、1～3年生を対象に「うたうよみきかせ」をしていただきました。ご自身で文を書いた「切り株に住んでいる野ねずみ」の絵本は、日常生活の一コマを切り取ったとても温かなお話で、心をつかむ語り口と相まって、子ども達は時間を忘れてお話の世界に浸っていました。学校職員ではない人との関わりが、子どもの視野を広げてくれます。



民生児童委員の島立さんより「畦地梅太郎」「堀文子」の作品を、福田さんより「福田豊四郎」の作品をお借りし、本物の作品で鑑賞の学習を行うことができました。畦地梅太郎さんの版画を先入観なしに鑑賞した子ども達は、作品から様々な発想を膨らませていました。作品の世界を楽しむことができました。



日頃より、北山小の子ども達が地域の皆様に見守られながら成長していることを、強く感じています。北山小は、歩いて登下校する子どもの割合が低いわけですが、登下校の際に交通安全の面で心配される場所もいくつかあります。もし可能であれば、登校の時間帯にあわせてその様子を見守ってもらえると、子ども達の安心につながります。ご不明な点は学校におたずね下さい(78-2234)。よろしく申し上げます。